新時代のコンピュータ総合誌
ComputerToday
●7月号／好評発売中　定価880円
Modula-2 & Lilith
Modula-2と専用マシンLilithの特徴　斎藤信男・山岡健志
Modula-2とPascal, Ada, C　武市哲也
システム記述言語としてのModula-2　Giacomo Marini
Modula-2言語仕様入門　山岡健志・斎藤信男
Modula-2プログラミング入門　木下佳樹
Modula-2/86　横田尚正
Modula-2/09の使い勝手　大澤範高
お得な年間購読のおすすめ　年間5000円(6冊)
別冊・ComputerToday　好評発売中 1300円
パーソナルコンピュータのための
日本語スクリーンエディタの作り方
→ソフト別売
あらゆるパソコンに対応する日本語エディタ
"SSE (Simple Screen Editor)" 初の解説書
数理科学
9月号予告　定価880円
特集＝推論
推論と人工知能　淵一博
自然言語処理と推論　田中穂積
談話と推論　石崎俊
意味と推論　白井賢一郎
疑似用法と語用論的推論　坂原茂
並列処理と推論　古川康一
類推について　原口誠
帰納推論の理論　篠原武・宮原哲浩
定性的推論　西田豊明
推論とインターフェイス　溝口文雄
〈連載〉パズル82　中村義作
数理科学・別冊　好評発売中
形・フラクタル　定価2,000円
ソリトン　定価2,000円
サイエンス社
東京都千代田区神田須田町2－4 安部徳ビル
☎03(256)1091　振替 東京7－2387

研究部会報告

政策科学（関西）

日時：昭和61年4月5日(土)　14:00～17:00
場所：『芦大クラブ』　**出席者**：14名
講演者および講演題目
(1)「政策科学と開発の周辺」
　棚橋啓世（インターナショナル・クリエイティブ・コンサルタンツ(有)）
(2)「多地域計量モデルによる北陸経済の分析—北陸新幹線の経済的インパクトの測定—」
　山根敬三（摂南大学経営情報学部）

要旨

(1) 開発事業の計画や運営上の実務的な課題を実例を引きながら検討し，政策科学から施策へのプロセスを考察している．

経営を「安定の経営」と「変革の経営」とにわけて考える．安定の経営には従来のORが役立つが，変革の経営には政策科学が必要であること，安定の経営から変革の経営への必要性が強調される．「変革の経営」の3要素である Design of future, Design of action, Design of value について詳しく論じている．

(2) 富山，石川，福井3県の経済的交絡を考慮した北陸経済第IIモデル（方程式数35本（推定式27本，定義式8本），内生変数35個，外生変数17個からなり，対象地域は，上記3県のほか，外生部門として北海道から九州まで合計11地域からなる計量経済モデル）をもとに，北陸新幹線の建設費用，建設工事期間，開業時によりいくつかのケースについて，北陸新幹線建設の富山，石川，福井3県への地域的なインパクトをシミュレーションによって計測し分析している．

© 日本オペレーションズ・リサーチ学会．無断複写・複製・転載を禁ず．

• **第15回**

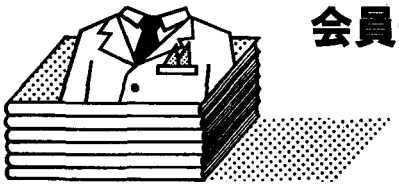
日時：昭和61年6月7日(土)　14:00～17:00

出席者：7名

場所：八丁堀　東京都勤労福祉会館

講師とテーマ：小島光造（技術研究家)「日本の伝統について」

21世紀の日本人の行動のパターンはどうなるかを研究の動機として「日本の伝統について」考えてみた．山本七平氏の言う「さまよえる日本人」は本当にいつもそうなのか．「甘えと情」「日本文化の生きざま」「創造の文化」「日本語」「日本人の風習」からシステム分析をし「日本は文明先進国である」と結論をされた．



会員近況

国際連合地域開発センター　**和泉　潤**

現在勤務している国際連合地域開発センターは，国際連合の専門機関として15年前に名古屋市に設立されました．設立の目的は，開発途上諸国内での地域開発計画の策定とその実施能力を啓発することが上げられており，これにしたがって，研修，調査研究，助言活動，情報交流の4部門から，より実際的な地域開発に貢献すべく活動を展開しております．ORとかかわりの深い調査研究部門では，開発途上諸国の地域開発で直面する諸問題をとりあげ，それぞれの国の実態を最も的確に反映するために開発途上諸国のすぐれた専門家や研究機関と協同で，開発計画手法，開発政策課題の2分野から実証的な調査研究を行なっています．この調査研究の一環として数多くの国際セミナーや専門家会議が開催されています．今年の大きな国際セミナーとして，9月24日から1週間名古屋，静岡，東京と会場を移動して，地域防災国際会議が開催されます．開発途上国等から40名程の行政マン学識経験者が参集し，日本からの参加者を含めて，地域開発計画と防災について活発な議論を展開する予定です．

会合記録

（　）内は出席者数

庶務幹事会　6月5日(木)（9）
編集委員会(OR誌)6月11日(水)（9）
普及小委員会　6月18日(水)（7）
研究普及委員会　6月23日(月)（10）
国際委員会　6月24日(火)（6）
編集委員会(JORSJ) 6月25日(水)（6）
OA委員会　6月26日(木)（3）
IAOR委員会　6月27日(金)（5）

編集後記▶AHPが当学会の公式の場で紹介されて1年近くたちました．今回，タイムリーに，AHPの生みの親サーティ教授はじめ会員の協力により多方面にわたる応用事例の紹介を行なうことができました．AHPに限らず，Karmarker 法のようなホットニュースもできるだけ早く特集を組んでいく予定でいます．乞，ご期待．▶さて，生みの親より育ての親と言いますが，QCと同じく日本ではより多くの人たちに受け入れられ役に立つのではないでしょうか．そのためにも，OR学会として単にムードに流されるのではなく，AHPを通して意思決定支援を考えていく必要がありそうです．サーティさんは，8月に国際会議のため来日しようか，南ア共和国からの招待（紛争解決のため）を受けようかの選択に悩んでいるそうです．　(S)

オペレーションズ・リサーチ

昭和61年8月号　第31巻（新シリーズ第11巻）8号　通巻308号
代表者　近藤次郎
発行所　社団法人 日本オペレーションズ・リサーチ学会
東京都文京区弥生2—4—16　学会センタービル
(電話　03-815-3351～2)　〒113
編集人　柳井　浩
発売所　株式会社　日科技連出版社
東京都渋谷区千駄ヶ谷5—4—2　〒151

• 本誌のご注文は直接
日本オペレーションズ・リサーチ学会へ　**定価　850円（郵送料含）年間予約購読料 9600円（郵送料含）**
• 本誌への広告お申し込みは明報社（571-2548），日経弘報社（563-2241）へ

© 日本オペレーションズ・リサーチ学会．無断複写・複製・転載を禁ず．